

平成17年(2005年)12月～平成18年(2006年)3月
平成18年豪雪
(滋賀県などで大雪)

～ 「自らの命は自らが守る」 社会を支える取組 ～

大阪管区気象台



大雪による人的被害や住家被害、交通障害などが多数発生

(除雪作業時の事故や雪の重みによる住家被害、道路の通行止め、鉄道の運休、農業施設や農作物への被害も発生)

【概要】

平成17年12月から平成18年1月上旬にかけて、非常に強い寒気が日本付近に南下し、強い冬型の気圧配置が断続的に現れた。この影響で近畿地方では期間を通じて雪が降りやすい状況が続き、滋賀県では12月13日に柳ヶ瀬で積雪差日合計が71センチ(極値順位2位)、12月22日に米原で積雪差日合計が54センチ(極値順位1位)となるなど、大雪となった。

この大雪により、近畿地方では滋賀県を中心に除雪作業時の事故による人的被害、雪の重みによる住家等への被害、道路の通行止めや鉄道の運休、農業施設や農作物への被害などが多数発生した。

なお、「平成18年豪雪」は、気象庁が名称を定めた気象・地震・火山現象に該当している。(大雪については「昭和38年1月豪雪」及びこの事例のみ)

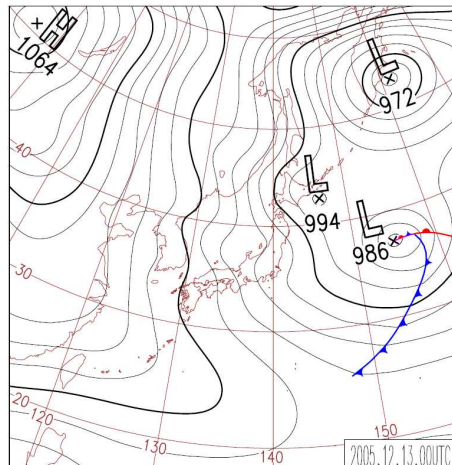
柳ヶ瀬の統計期間：昭和56年11月～、米原の統計期間：平成13年11月～

近畿地方の被害の状況

人的被害：死者5名、重傷14名、軽傷19名。住家被害：全壊5棟、半壊12棟、一部破損1,279棟。非住家被害：143棟。

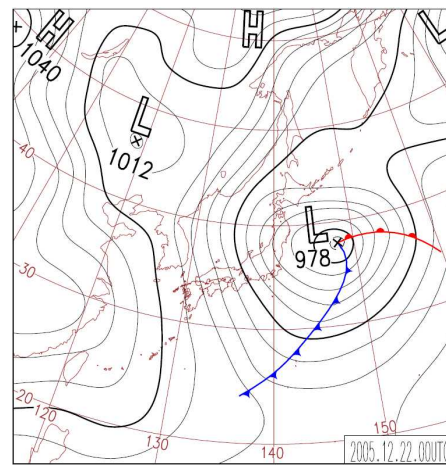
消防庁「今冬(平成17年12月以降)の雪による被害状況(第62報)」平成18年9月25日18時00分現在より

被害は平成17年12月～平成18年3月までの期間の合計



地上天気図

(平成17年12月13日09時)



地上天気図

(平成17年12月22日09時)

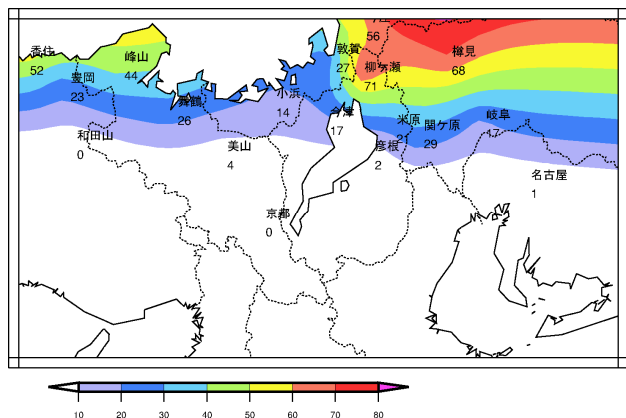
雪がもたらす災害

積雪害	鉄道や道路に雪が積もり交通障害をもたらす。また交通障害に伴い、生活・企業活動への影響を及ぼす。農作物への被害など。
風雪害	吹雪によって視界が悪くなり、交通障害や事故をもたらす。
雪圧害	積もった雪の重みで家屋・施設が倒壊したり、果樹などの枝が折れて損傷する被害。
雪崩害	斜面の雪の一部が崩壊してもたらされる災害。
着雪害	湿った雪が送電線や通信線に付着して、その重みで断線したり、鉄塔や電柱などが倒壊する被害。また樹木等にも湿った雪が付着して、その重みで枝が折れて損傷する被害。

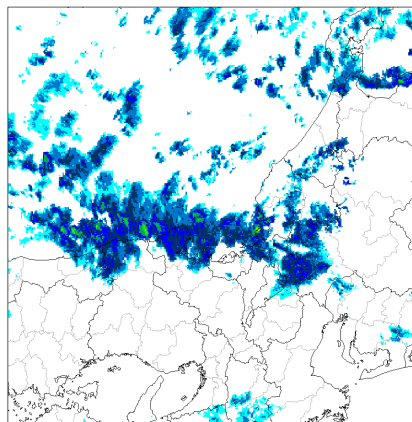
統計等は2020年12月25日現在です。



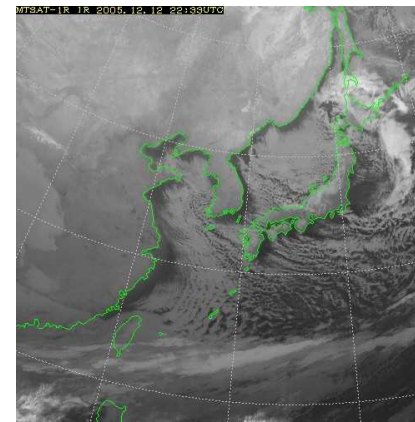
平成18年豪雪 (平成17年12月～平成18年3月)



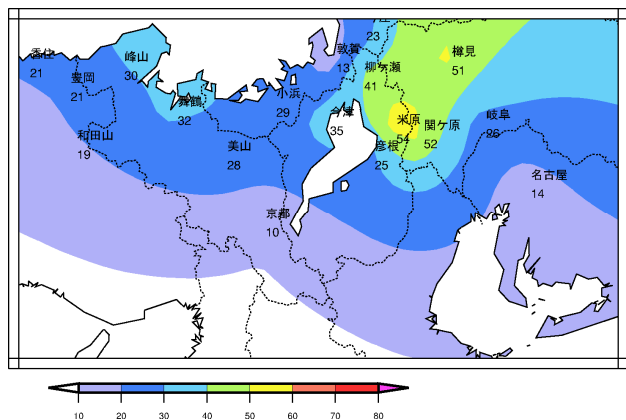
降雪量
(平成17年12月13日の合計値)



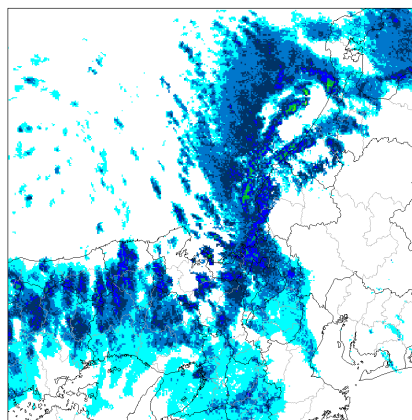
気象レーダー画像
(平成17年12月13日09時)



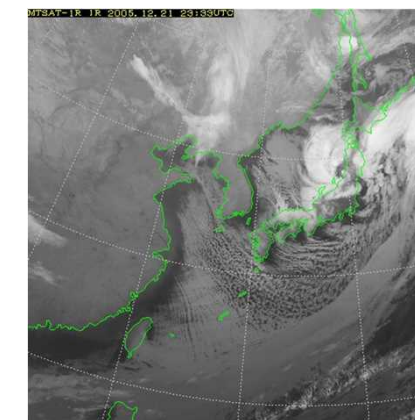
衛星赤外画像
(平成17年12月13日09時)



降雪量
(平成17年12月22日の合計値)



気象レーダー画像
(平成17年12月22日09時)



衛星赤外画像
(平成17年12月22日09時)